

会 議 録 要 約

会議の名称	令和５年度第３回八尾市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
開催日時	令和６年２月19日（月） 午後２時００分～午後４時００分
案件	議事 ・パブリックコメントの実施結果と市の考え方について ・第９期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（案）について ・地域密着型サービスの指定等について ・指定介護予防支援事業者の指定対象の拡大等について

第９期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（案）について	
委員	・第８期計画で整備できなかった地域密着型特別養護老人ホームを第９期計画でも募集するが、どのような点を変更して募集するのかを記載した方がよいのではないか。 また、グループホームは１ユニットで足りるのか。
事務局	・第８期計画では圏域を絞って募集していたが、第９期計画では圏域を設定しない方向で考えている。グループホームは見込み量として１ユニットで足りると考えている。
委員	・フレイル予防の推進について、特に女性は介護が必要となった主要因として、間接疾患、骨折・転倒が多いため、継続的なトレーニングが必要なことが分かる。第７期計画と第８期計画の比較では通所リハビリテーションの事業所数が２１から１７に減少している。これでフレイル予防を進めていけるのか。
事務局	・第８期では事業所数が減っているが、第９期では介護に頼らないフレイル予防をしっかりと進めていく。
委員	・フレイル予防の効果はすぐにはでない。集団でやることで効果があがる。市の啓発をしっかりとやってほしい。
事務局	・フレイル予防は継続が大事と認識している。わかかわごぼうトレーニング等を通して自主活動支援へとつなげることでフレイル予防を促進していきたい。
会長	・地域の中で自主的に取り組んでいくことが大事。自主性をいかに具体的な活動へとつなげていくかが課題。
委員	・施設がなければ在宅が増える。財政的な問題もあり、あらゆるサービスをすべて実施するという時代ではなく、取捨選択が必要。要介護３以上が在宅に戻る中で、在宅サービスが同じような見込み量を掲載しているが、これでよいのか。また、在宅が増えれば訪問看護や夜間訪問看護のサービス必要量も増加する。施設数を含めてこれでよいのか。
事務局	・フレイル予防や介護予防についてはすぐに結果はでないが、何とか結果につなげてこの数字になるように考えている。医療と介護で多職種が研修などを通して連携を進めていく。
委員	・フレイル予防や介護予防について包括が動く部分は大きい。パブコメの意見でもあるように包括ではレビュー会議を含めて多様な部分に力を入れて取り組んでいる。計画にもう少しこの部分を入れてほしい。また、包括の負担軽減について記載はあるが、具体的な市の支援策が分からない。スタッフが足りないので事業ができないという側面もあるため、人材育成等についても具体的なことを記載していただきたい。

事務局	・包括の負担軽減は、人材支援も含めて具体的に記載できていない部分もあるが、引き続き第9期計画でも協力して取り組んでいきたい。
事務局	・人材の問題は高齢分野に限ったものではない。八尾市の重層的支援体制において市全体で取り組んでいきたい。
委員	・一般会計予算のことも記載があるが、重層的支援の観点で、社会福祉協議会も地域の給食サービス等地域のいろいろな活動で外出支援に積極的に取り組んでいる。介護保険だけではなく全体的な取り組みを掲載してほしい。
委員	・資料の中で、介護予防の推進の説明について、要介護状態となることが悪いことのような表現に感じるため、表現方法について検討してほしい。また、わかわかごぼうや動画配信については確かに良いと思うが、それを地域でどのように実施していくかイメージがあるのか。 ・私の地域には60歳以上の割合が非常に高い。地域のキーステーションをどこにしていけば課題がある。地域のコミセンにもしっかりと役割を果たしてもらいたい。例えば、テレビのラジオ体操が身体に良いのは明白だが、耳が聞こえない方には課題がある。そういった人は地域のフレイル予防体操を実施してもなかなか参加につながらない。このあたりの課題について、社会福祉協議会や包括も頑張ってくれていると思うが、本当に支援が必要な人へ良い支援がうまくつながっていない部分が現実的に存在する。
事務局	・要介護状態に係る部分についての表現については注意する。集まることが困難な人がいるため、動画配信や定期的に高齢者が集まる場など介護予防につながる取り組みを、社会福祉協議会や高齢者あんしんセンターと連携して取り組んでいきたい。
委員	・永畑地区で高齢者が集まるためのカフェを実施しているが、参加者が減少傾向にある。八尾市全体ではどうですか。
事務局	・コロナによって参加者が減少傾向にあったが、最近では少し回復傾向にある。コロナで外出しなくなった状態が続いている高齢者も一定数存在しているため、自主活動団体のリーダーの復帰を含めて支援が必要と認識している。
委員	・包括に介護予防・フレイル予防の講演を実施していただき30人ほどの参加があったが、コロナで飲食ができない部分があり、お茶の一杯でも出して触れ合い、そこから話をして元気になっていくこともあるので、市には柔軟な支援をお願いしたい。
委員	・用和地区では給食の集まりを実施している。今までは給食後にカラオケをしていたが、コロナでできなくなった。今は麻雀やボッチャをして介護予防へつなげるよう意識しており、小学校との交流も行っている。また、給食に來ない人には安否確認を兼ねて家庭訪問を行い、地域で一人でも多くの人が元気でいただけるよう取り組んでいる。
事務局	・高齢者はすぐに外出へとつながらない課題があることは認識しており、きっかけとして飲食を含めた充実感を感じる取り組みを充実させることが必要と感じている。
会長	・支援が必要な人へいかに支援をつなげるか。男性の一人暮らしは特に支援が届かないという研究報告もあるため、いろいろなアイデアをあらゆる機会を通じて実施することでより充実した計画にしてほしい。

副会長	・いろいろな委員の意見があるようにサービス見込みについては不安がある。高齢者の外出については、コロナ後は非常に困難な面があり、集団そのものが苦手な人もいる。そのような人には委員の意見にもあったとおり、個別の対応も必要になる。
委員	・「多彩なコンテンツ」「デジタルデバイドの解消」などの表現があるが、具体的にどのような取り組みを指すのか分かりにくい。高齢者でも分かるような表現を心がけてほしい。また、先日オレンジカフェに行ったが、目が不自由な人が要介護認定を受けたくないと言っていた。自治会に入っていないとオレンジカフェなども声がかからないので、この部分も課題とを感じる。
委員	・90歳以上の親がいる場合、デイサービスには行くがショートステイは希望しないなど課題がある。施設が減ると不自由な人も増えると思うので、そのあたりをよく考えてほしい。
委員	・高齢クラブの会員数は約6,000人、うち80歳以上が約3,000人。過去には17,000人以上の会員がいたが減少傾向にあるため、加入促進の協議をしているところです。会員には包括を紹介したりするが、施設に行くことには抵抗がある人もいる。高齢クラブ加入者以外も参加できるバス旅行を企画したところ、約700人の参加があった。いろいろな取り組みを考えているが自分たちだけで考えるのではなく、既に実施している社会福祉協議会との協力に加えて、包括の知恵を借りるなど、今後も介護予防にあたりいろいろな意見を聞いて前向きに取り組んでいきたい。